

入社おめでとうございます。役員、社員を代表して心から皆さんの入社を歓迎いたします。

今回は男性7人、女性7人の合わせて14人が入社します。男女の割合が初めて50%ずつとなりました。これは某経済雑誌で女性の働きやすい会社300社の中でMBSが31位に入ったことで、女性の入社希望者が増えたことも大きな要因ですが、それ以上に何かを作りたい、伝えたい、思いを届けたいという強い意志を持った女性が増えたからだと思います。女性の感性や視点に立った番組やイベントなどがさらに新しく生まれてくることを大いに期待しています。もちろん男性も女性に負けじと頑張ってください。

私も40年前の入社式の席で、どんな思いで社長の挨拶を聞いていたのかなあ、と思い出そうとしてもこれが全く思い出せません。そこでいきなりですが、社会人のスタートを切る第一日目の今日、皆さんが今どんな思いをもってそこに座っているのか、一人ひとり聞いてみたいと思います。

と言え皆さん、そんなことの人事から聞いてないよーとドキッとしたでしょう。ちょっと焦ったでしょ。入社式って儀式みたいなものと思っていた人もいるかもしれません。きちっとした儀式は儀式で大切なこと。

でもそれを打ち破ってもっと人の気持ちに入っていく事、感性をゆさぶること、つながっていくこと、そんな入社式、そんな期のスタート、4月1日。何かないか？どんな言葉で、どんな方法で、どんなプロセスで……。そうした既成概念を打ち破ることも皆さんには期待されているのです。

そんなことをこれからずーっと、一日中、一年中いつもいつも考え、アンテナを張り巡らし自分の思いを番組に、イベントに、セールスにいろんなステージでそれを形にし、世の中に届けていくことに向かうスタートです。

ところで当社は今年開局65周年を迎えます。

65年前、MBSの前進である新日本放送は、日本初の民間放送として大阪で産声を上げました。場所は現在の阪急百貨店の屋上にあった「鳩小屋」と呼ばれる小さな建物でした。

今では東京が情報発信の中心になっていますが、東京ではなく大阪から民放の第一声がラジオを通じて流れた意義はとても大きいものだと思います。当時はCMを流してお金をもらって経営するという民放のモデルは日本にはなく、先輩たちは、必死でラジオの広告価値が高い事を説明をして今日のビジネスモデルを確立しました。そしてCMという文化を創造してきたのです。番組の作

り方も、NHK 以外にはお手本はありませんでしたが、NHK とは違うタイムテーブルを作ってあれこれ知恵を絞りながらの手探りで独自の番組を制作してきました。日本最初の民放の放送部長となった小谷正一さんは、最初は「コマーシャルって何ですか？」というド素人でしたが、その人が制作スタッフと 1 週間に 500 もの番組を考えてタイムテーブルを作り上げたのです。ものすごい事だったと思います。まさに今で言うベンチャー企業としてのパイオニア精神が社内には満ち溢れていました。その後もテレビの開局、系列の変更などを経て MBS は、様々な番組を生み出しながら地域社会、全国へ発信を続けてきました。

野球中継では当たり前になっている外野席からピッチャーの背中越しにバッターとキャッチャーを捉えた映像は、MBS が日本で初めて考え出したものです。それまではバックネット裏から撮影したバッターの背中越しにピッチャーを入れ込んだ映像しかなかったのです。また、歴史のあるお寺を舞台にしてコンサートをするという発想でイベントや番組を始めたのも MBS です。私自身も番組を作って当時の先輩に「これは何や」と怒られたこともあります。MBS はそれを許容してくれる組織風土。そしてそれが、パイオニア精神だと思います。

番組の見逃し配信サービスなど視聴形態の変化への対応に目が行っていますが、放送局として一番大切なのはコンテンツ、つまり番組でありイベントです。コンテンツの出し場は、BS、CS、インターネットなどどんどん広がり、変化しても、要は面白いコンテンツを作らないと視聴者、リスナーなどは MBS を見て、聴いて、参加してもらえないということです。

今、一番テレビを見ないのが若者であると言われていています。放送局を志し、何かの縁でここに座っている皆さんは、テレビを見ない自分たちのスマホ同世代に向かうコンテンツのあり方を、これでどや！とその送出、発信手段、プロセス含めて創造して行ってほしい。それを生み出すのに必要なことは、既成概念を脱し、誰も踏み入れたことのない場所に踏み出す勇気かもしれません。

僕らの、私たちの時代のラジオは、テレビは、イベントはこういうものだ。我々の世代をつなぐコンテンツはこうあるべきだと。先輩がそうきたか・・・と思う新しい風を明日にでも起こしてもらいたい。

皆さんの後ろには勤続 10 年、20 年、30 年の先輩たちが座っています。もうきょうから皆さんも、そのベテランと同じように一人ひとりが放送マンであり MBS の顔です。より高い社会性や倫理観が求められるという自覚を持ってください。そして、常に視聴者・リスナーの気持ちのありどころ。人はそれをどう思うかという単純明快な当たり前の視点を忘れないでほしいと思います。

皆さんは私たちが MBS の未来を託すことができると信じた 14 人です。世の

中のあらゆることに好奇心、興味を持って日常生活の中にいつもいつもアンテナを張り巡らし、君たちの感性でモノを作り 世間に思いを伝え、届けてほしい。失敗を恐れることはありません。当社には先輩から苦境を乗り越えるパイオニア精神の DNA が脈々と受け継がれています。5年後にはオリンピックがあり 10年後にはメディア環境もさらに大きく変わっています。皆さんはきっと先輩の DNA を受け継ぎ、変化や厳しい局面を乗り越えて各職場の第一線でバリバリ仕事をしているはずです。一緒に頑張っていきましょう。

以上